

令和5年11月15日

泉南市議会議長  
森 裕 文 様

まちづくり等成長戦略調査特別委員会  
委員長 田 畑 仁

## まちづくり等成長戦略調査特別委員会行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、その概要を報告いたします。

- 1、視 察 日 令和5年11月1日（水）～2日（木）
- 2、視察参加者 委員長 田畑 仁 副委員長 楠 成明  
委 員 岡田 好子 委 員 添田 詩織  
委 員 谷藤 麻由奈 委 員 石橋 正敏  
委 員 竹田 光良 委 員 堀口 和弘
- 3、視 察 先 鹿児島県霧島市（11月1日）  
鹿児島県出水市（11月2日）
- 4、調 査 事 項 鹿児島県霧島市  
シティプロモーション（移住・定住促進事業）について  
鹿児島県出水市  
シティプロモーションについて  
移住・定住促進事業について
- 5、視 察 目 的 霧島市は、大都市近郊のベッドタウンであり、市域に空港を有するなど交通アクセスの良さもあり、全国の移住地の中でも上位に位置する市です。交通アクセスや立地など本市と共通点もあることから高齢化、人口減など本市が抱える課題解決のため、先進事例を調査、研究するものです。  
出水市では、農業体験を通じて、農家との交流を図り、地域の活性化につなげる取り組みのほか、空き家対策として、武家屋敷群の古民家を活用した宿泊所や飲食店などの利活用にも積極的に取り組んでいることなど、参考となる事例として調査、研究するものです。

## 6、視察概要

### ■鹿児島県霧島市

#### 移住・定住促進事業について

霧島市は、海、山の自然環境のほか、温泉もあることから観光客が年間を通じ多く訪れています。また、鹿児島空港や高速道路の交通インフラが整っており、鹿児島市内へのアクセスにも恵まれていることから、九州エリアの移住地で1位の人気を誇っています。しかしながら、近年は人口の減少傾向が続いており、人口減少の抑制、移住者の受入に積極的に取り組んでいます。移住希望者には、オンライン相談会の実施やお試し移住体験のほか、先輩移住者との意見交換会なども行われており、移住への不安感を減らす努力がされています。

また、最近のテレワークの需要に対しても、ブロードバンドを整備するなどハード面での受け入れも整っています。

さらに、首都圏からの移住については、支援金が支給され、市内の中心市街地から中山間地への移住についても補助制度を設けるなど、きめ細かな、手厚い支援制度が用意されており、目的に合わせた最適なプランで移住生活がスタートできるよう支援しています。



### ■鹿児島県出水市

#### シティプロモーションについて

出水市は、ラムサール条約登録湿地の鶴の越冬地と日本遺産の武家屋敷群を柱とした観光プロモーションに取り組んでいます。豊かな自然環境で生産、製造された農産物や加工品などにラムサールブランドの付加価値をつけて販売しています。

また、歴史・文化が色濃く残る武家屋敷群では、都市計画の規制緩和を行い、宿泊施設や飲食店の営業ができるようになり、市が所有する武家屋敷を宿泊施設に改修してオープンしたところで、今後も宿泊施設やレストランに改修の予定で、古きよきものに新たな変化を取り入れていく歴史的資源を活用し、観光客の回遊性の向上、交流人口の増加につなげていくとのことでした。



また、シティブランドとして、食では、日本有数の鶏肉、鶏卵の産地であることから、ご当地グルメとして「いずみ親子ステーキ」を販売し、鶏肉や鶏卵を使用した料理、スイーツを提供する店舗の紹介など、事業者と一体となってブランドイメージの確立に努めています。

#### 移住・定住促進事業について

定住を促進するため、市外への通勤者に定期券購入額の一部補助や市が指定した65歳以上が半数以上を占め、30世帯以内の自治会である「いきいき自治会」に転入、転居または新增築に対する補助金の交付、東京圏からの移住、就業者への支援金の給付なども行っており、移住・定住促進への取り組みが行われています。



また、出水市は他の自治体よりいち早く民泊事業にも取り組んでおり、市域の多様な素材を活用した体験プログラムや民泊の受け入れプランなどを創出する地域コーディネーターの発掘、育成にも取り組んでおり、修学旅行などの教育旅行との連携による交流人口の増加を図っています。

## 7、視察を終えて

人口減少・高齢化の進行により、地域の活動を担う人材不足、地域経済を支える労働人口の減少が続く中、人口減少に対応するため子育て支援を充実させ、選ばれる自治体となるよう移住に取り組む競争が激しくなっています。

霧島市では、市全体の人口は減少しているものの海、山の恵まれた自然環境と鹿児島空港や鹿児島市からの交通アクセスの良さなどから移住を希望する方は増えています。移住希望者への対応・説明については、特に、丁寧に行われており、その対応から移住を決めた人もいるとのことで、移住に対して、一人ひとりの不安に向き合い、信頼関係を構築していく取り組みは大いに参考となりました。

出水市における移住・定住促進事業では、市内の人口減少や高齢化による市街地の空洞化、空き家問題など本市と共通する課題を抱えています。

出水市では、都市部への人口流出を防ぐため、都市部へ通勤する市民への通勤補助や首都圏から移住した方への新築・増築等の住宅補助のほか、民泊を活用した農業体験など修学旅行と連携して行われているなど滞在型の観光事業にも積極的に取り組んでいます。

本市においても知名度向上のための各種イベントを開催していますが、多くのイベントによる集客は一過性であり、定住・移住には結びついておらず、イベントに頼らない誘客の取り組み、泉南に行きたい、泉南に住みたいと思える移住・定住につながる施策の展開が求められます。

両日とも予定していた時間を超えた質疑応答が活発に行われるなど、委員の関心の高さも伺えました。委員会としても、今回の研修から得た情報、知識を市に対し、さまざまな提案をしていきたいと思えます。